

目 次

弔辞：菱木昭八朗先生を送る	日高 義博	1
弔辞：菱木昭八朗先生との思い出	宮岡 孝之	4
専修大学の法学教育と今村力三郎 ——1880年の創立から1927年の法学部設置まで	大 谷 正	7
今村力三郎追想——その在野法曹としての精神的根拠	辻 達 也	16
今村力三郎顕彰展・編集後記		23

弔 辞 菱木昭八朗先生を送る

菱木先生、こんなに早く、しかも突然に、お別れの言葉を述べなければならないとは思いませんでした。いつもの語り口である「日高君やあ」という先生の声、いまでも聞こえてきそうです。4月下旬頃だったと思いますが、電話口で「最近、スウェーデンの行刑法の改正があったんだけど、日本法ではどうなっているんだ。日本語のテクニカルタームと平仄を合わせたいんだけどね。」といういつもの鋭い質問を受けました。私にとって、これが先生の最後の言葉でした。微熱が続いているというのに、なお研究に打ち込まれているのかと感激しましたが、「研究者たる者どんな状況にあっても自分の研究を捨てはいけない」という最後の教えだったように思います。

私が菱木先生と初めてお目にかかったのは、大学1年の時でした。ストックホルム大学の留学から帰国された先生は、若さあふれる37歳の助教授でした。法学研究